

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：13 理学系研究科

申立ての内容	申立てへの対応
【評価項目】 I. 教育水準 5. 進路・就職の状況 【判断理由】 【原文】 「・・・博士課程修了生の進路は<u>化学専攻を除き、物理、地球、生物系の専攻ではポストドクターへの就職が半数以上を占め、研究者育成の目標に合致して・・・</u>」 【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい。 【修正文案】 「・・・博士課程修了生の進路は<u>各専攻において教員やポストドクターへの就職が半数以上を占め、研究者育成の目標に合致して・・・</u>」 【理由】 原文では化学専攻のみ研究者育成の目標に合致していないように読める。教員になることはポストドクター以上に目標に合致しているので、修正文のようにしないと誤解を生じる。なお、現況調査表に明記されているように、資料 13-31 のグラフにおける教員は実際はほとんど大学教員であり研究職である。	【対応】 意見のとおりとする。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：26 情報理工学系研究科

申立ての内容	申立てへの対応
【評価項目】 I 教育水準 4. 学業の成果 【判断理由】 【原文】 「・・・学生へのアンケート結果から基盤的能力の向上については必ずしも実感されていないが、学生の学会発表、受賞が多く研究指導の効果が明らかに認められるなど・・・」 【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい。 【修正文案】 「・・・学生へのアンケート結果から、基盤的能力の向上については他の質問項目に比して肯定的回答がやや少ないが、学生は教育の成果について総じて肯定的に受け止めていることが伺えるとともに、学生の学会発表、受賞が多く研究指導の効果が明らかに認められるなど・・・」 【理由】 学生アンケートの結果では、「情報理工学全般の基礎知識」の向上について、肯定的回答（「向上している」「まあ向上している」）が、修士課程では7割弱、博士課程では6割強を占めており（資料26-31b及びc参照）、基礎的能力の向上について「必ずしも実感されていない」とする根拠がない。 以上のことから、学業の成果に関する現状を正確に表現するため、学生アンケートに基づく客観的な状況記述に訂正していただきたい。	【対応】 意見のとおりとする。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

国立大学法人東京大学

法人番号：22

学部・研究科等番号・名称：26 情報理工学系研究科

申立ての内容	申立てへの対応
【評価項目】 I 教育水準 5. 進路・就職の状況 【判断理由】 【原文】 「「関係者からの評価」については、学生のアンケート結果は平均的であり、<u>教育に高い評価を得ている</u>とは言い難いが、<u>産業界、外部有識者から研究能力、技術力が高い評価を得ている</u>など・・・」 【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい 【修正文案】 「「関係者からの評価」については、学生のアンケート結果<u>から相応の成果が上がっている</u>ことが伺えるとともに、<u>産業界、外部有識者から研究能力、技術力が高い評価を得ている</u>など・・・」 【理由】 資料 26-31b 及び c に示すとおり、学生のアンケート結果では、修士課程の学生 90% が研究の基礎となる学力や問題解決能力を得た、また、大学院博士課程の学生 95% が最先端の研究能力と専門知識が身に付いたと回答しているところであり、本アンケート結果について「平均的」とする判断理由が必ずしも明確でなく、「教育に高い評価を得ているとは言い難い」とする根拠がない。また、分析項目「4. 学業の成果」の判断理由では、同学生アンケートの結果に基づき、相応の成果が上がっていると評価されている。	【対応】 意見のとおりとする。

以上のことから、学生アンケートの結果を適切に記載するとともに、分析項目 4 の判断理由との整合を図るため、判断理由を訂正していただきたい。	
--	--

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：04 文学部・人文社会系研究科

申立ての内容	申立てへの対応
【評価項目】 I 研究水準 2. 研究成果の状況 【判断理由】 【原文】 「・・・卓越した研究成果として、<u>例えば、哲学、言語学、社会学、心理学等の分野</u>において・・・」 【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい。 【修正文案】 「・・・卓越した研究成果として、<u>哲学、言語学、社会学、心理学、**、**の分野</u>において・・・」 【理由】 原文では、卓越した研究成果をあげている分野が「<u>例えば、****等の分野</u>」と記載されているが、評価結果を踏まえて更なる向上を図るために、修正文案のように「<u>例えば、</u>」と「等」を削除し、具体的な分野名の列挙をお願いしたい。	【対応】 意見を踏まえ、判断理由を以下のとおり修正する。 【理由】 現況調査表等を再確認し、判断理由を以下のとおり修正する。 ○判断理由 「・・・卓越した研究成果として、<u>哲学、言語学、社会学、心理学の分野</u>において・・・」

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：13 情報理工学系研究科

申立ての内容	申立てへの対応
【評価項目】 I 研究水準 1. 研究活動の状況 【判断理由】 【原文】 「・・・分野の特異性もあり・・・」 【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい。 【修正文案】 「・・・比較的新しく活性度の高い分野であることもあり・・・」 【理由】 情報理工学の性格を「特異」とする事実認識は、学問体系についての常識・通念に反する。	【対応】 意見のとおりとする。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：16 医科学研究所

申立ての内容	申立てへの対応
【評価項目】 I 研究水準 1. 研究活動の状況 【判断理由】 【原文】 「臍帯血バンクと研究用幹細胞バンクは、出産時に提供を受けた臍帯血を、患者の必要とする時まで保存している。これまでに、574 件(全国計では 1,601 件)の研究用臍帯血を提供した。」 【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい。 【修正文案】 「臍帯血バンクは、出産時に提供を受けた臍帯血を、患者の必要とする時まで保存している。<u>これをベースとした研究用幹細胞バンクの中心施設として、</u>これまでに、574 件(全国計では 1,601 件)の研究用臍帯血を提供した。」 【理由】 現況調査表に記述したとおり、臍帯血バンクは、白血病等の治療のために臍帯血を患者が必要とするときまで保存する施設である。他方、研究用幹細胞バンクはこの臍帯血バンクの実績を踏まえて、研究用の臍帯血を保存・提供する施設であり、両者は別個のものであるが、原文では混同されているため。	【対応】 意見のとおりとする。